

KAHO GALLERY

It is only with the heart that one can see rightly;
what is essential is invisible to the eye.

プレスリリース
2016年1月吉日

報道関係者 各位

「宮崎智晴展 / モメント・ドーロ」開催のお知らせ

このたびカホ・ギャラリーでは、「宮崎智晴展 / モメント・ドーロ」を開催いたします。
展覧会タイトルである「モメント・ドーロ」について宮崎智晴は次のように述べています。

モメント・ドーロとはイタリア語で「黄金の時間」という意味で、フレスコ画と呼ばれる絵画技法の中から生まれた言葉です。
フレスコ画とは漆喰を塗って乾燥する迄の間に水彩絵の具(水で溶いた顔料)を染み込ませて描いていく技法の事です。
この技法で描かれた絵画は一説には千年の耐久性を持つとも言われています。

しかし漆喰が乾ききる前に描き上げなくてはならないという時間的制約と、塗らたての漆喰は柔らかく非常に描きにくいという難点もあります。

それでも辛抱して描き続けていると、壁が乾いて引き締まり非常に描きやすく筆ののびも良くなり、モメント・ドーロすなわち「黄金の時間」と呼ばれるひとときが訪れるのです。

それはたった一二時間足らずのものですが、その間に画家は非常な集中力をもって描き上げます。

というのもその時間帯が過ぎてしまうと漆喰が(硝子状の塗膜を張り出すので)絵の具を吸収しなくなるからです。

私が制作上で求めている「物事」とは眼に見えぬ時間の密度、硬度です。

今回の絵はフレスコ画で描いた訳ではありませんが、同じくテンペラと油彩を併用する古い技法を用いて各物語に時間の密度、硬度を質感として表現しようと試みました。

表現者をフレスコ画の時間軸に例えて重ねるならば、目の前を過ぎ行くあらゆる「事柄」何でも良いものを取り込み吸収する時期(インプット)と、それら自分の体内に染み込んだ事や技術が「表現」として「物」として急速に固まり排出される時期(アウトプット)があります。私の中で生じた物語「事」と、また絵画という「物」の双方に現れた私の中の「黄金の時間」をどうぞご覧下さい。

この機会に是非ともご紹介いただきますようお願い申し上げます。

【開催概要】

名称： 宮崎智晴展 / モメント・ドーロ
会期： 2016年2月20日(土) - 2月28日(日) 会期中無休
時間： 12:00 - 18:00
会場： カホ・ギャラリー



箱男
テンペラ・油彩・板
17.7 x 17.6cm

【本展に関するお問合せ先】

■カホ・ギャラリー
〒605-0981 京都市東山区本町15-778-1
電話： 075.708.2670
e-mail： kahogallery@gmail.com
website： www.kahogallery.com